

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル
電話/FAX：03-5740-9505 e-mail：最後のページ参照
日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

日本教育工学会 第26回全国大会のお知らせ（第三報）

日本教育工学会第26回全国大会を、下記のように金城学院大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募下さい。

1. 開催期日・会場

期日：2010年9月18日（土）～20日（月）（3日間）

会場：金城学院大学 〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目1723

※敷地内全面禁煙

※名鉄瀬戸線「大森・金城学院前」駅下車，北改札口を出て徒歩7分

※<http://www.kinjo-u.ac.jp/contents/access.html>

※大会期間中，駐車場は展示用機材の運搬車両や大会運営者の車両が大半をしめることが予想されます。身体に障害をお持ちの方など特別な理由がある方のための駐車スペースを確保できるよう，公共交通機関でお越し下さい。また，周辺に，有料駐車場はありません。ご協力をお願いいたします。

※最寄り駅の大森・金城学院前駅から本学までは上り坂です。健康上の理由等で坂を上ることが難しい方は，栄・大曾根方面から見て2つ手前の小幡駅で下車してタクシーをご利用し，西側キャンパスW10号館前までお越し下さい。印刷した本学のキャンパスマップ（<http://www.kinjo-u.ac.jp/contents/campusmap.html>）を，運転手にお示しいただくとスムーズに到着できると思います。タクシー料金は1000円程度です。

※後援：文部科学省（予定），愛知県教育委員会，名古屋市教育委員会，岐阜県教育委員会，三重県教育委員会

2. 大会日程

第1日 9月18日（土）	第2日 9月19日（日）	第3日 9月20日（月）
9:00～17:00 受付	9:00～16:00 受付	9:00～15:00 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食・各種委員会	12:30～14:00 昼食・理事会	12:30～14:00 昼食・大会企画委員会
13:30～15:30 シンポジウム1	14:00～14:30 全体会	14:00～16:30 課題研究発表
15:50～17:50 一般研究発表2	14:45～17:30 シンポジウム2	
18:00～19:30 ワークショップ	18:00～20:00 懇親会	

*プログラム編成によっては，時間帯が若干変わることもあります。International Sessionは，一般研究発表（口頭発表，ポスター発表）と並行して実施されます。また，企業展示が18,19日に開催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお，2日目の全体会では，研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。また，懇親会会場にてハンドベルコンサートをを行います。ぜひ懇親会にもご参加下さい。

本号目次

第26回全国大会のお知らせ（第三報）	1	論文誌特集号のご案内（第二報）	14
韓国・インドネシアとの国際交流	9	理事会議事録	15
夏の合宿研究会のご案内（最終報）	10	学会日誌等	16
研究会の開催案内／発表募集／報告	11		

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています（コーディネータは、五十音順）。

シンポジウム1

シンポジウム1A

「高等教育の質保証－教育工学の関わり－」

コーディネータ：大谷 尚（名古屋大学），白井靖敏（名古屋女子大学），前迫孝憲（大阪大学）

高等教育の質保証は、現在、高等教育機関だけでなく、社会全体の重要なテーマとなっており、多様な議論、多様な実践がある。そこでは、テクノロジーはおもに、教員の授業設計、準備、実施、評価などの授業者のサポートに活用されるとともに、学生の学習のサポートにも多様に活用され、学力保証面で貢献している。このシンポジウムでは、さらに、多様化する資質・ニーズを有した初年次の学生のケアから、社会人としての職業場面への送り出しを意識したコミュニケーションスキルの教育などまでを視野に入れ、入学から卒業までを見通した包括的な質保証の試みを取り上げ、そこのICTや教育工学の関わりについて考える。

シンポジウム1B

「教科におけるICT活用：教科教育学と教育工学との協働の可能性」

コーディネータ：豊田充崇（和歌山大学），東原義訓（信州大学），益子典文（岐阜大学）

教科教育学と教育工学は、学校での教育実践ではもちろんのこと、授業研究、教師教育、教育システム開発などの各研究領域において深いかわりがある。また、昨年のシンポジウムにおいても、教育工学が教科教育学を含めた関連分野と連携し実践的な研究を推進することの重要性が指摘されている。折しも、新学習指導要領に沿った指導内容の改訂、習得・活用・探究型の授業の実現など、双方の研究と深いかわりのある学校教育は新しい方向へ一歩踏み出す時期にあると言える。この時期に、教科教育学と教育工学の実践を捉える枠組みについて対話を行い、実践研究推進の方策について議論を深めたい。本シンポジウムでは、ICT活用に関する実践事例を話題の中心として、教科教育の専門家からのコメントを踏まえ、双方の接点・相違点、そして今後の「協働」にむけての方策についての示唆を導きたい。

【登壇者】（タイトルは仮のもの）

- 1) 国語科の授業実践者の立場から 前田康裕（熊本市教育委員会）
- 2) 国語科の授業研究の立場から 梅澤 実（帝京科学大学）
- 3) 理科の授業実践者の立場から 中井章博（和歌山県教育委員会）
- 4) 理科の授業研究の立場から 小倉 康（国立教育政策研究所）

シンポジウム2

「教育工学を問い直す－教育工学はどうあるべきか－（仮）」

コーディネータ：鈴木克明（熊本大学），美馬のゆり（はこだて未来大学），
室田真男（東京工業大学）

教育工学の社会への貢献・普及・啓発の観点から今後を考える場として、本シンポジウムでは、これまで本学会が25年の間歩んできた過去を振り返り、今後の方向性を模索する。本年6月19日第26回通常総会開催時に行われる25周年記念シンポジウムでは、研究方法論を中心にこの10年を振り返るセッションと、これからの10年を関連学会との連携の視座から見通すセッションが行われる。また、25周年記念事業の一環として、出版計画も進んでいる。本シンポジウムでは、この流れを受けて、「教育工学はどうあるべきか」についてさらに深く掘り下げていきたい。

(2) 課題研究

本大会では公募で寄せられたテーマを含めて大会企画委員会で検討した結果、次の8件のテーマを予定することになりました。プロポーザルの提出締切は6月24日です。大会企画委員会が発表の可否を決定

いたします。各課題について十分に討論することを目的としていますので、発表者は、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加しなければなりません。この点、ご留意下さい。

なお、趣旨文等は、大会Webサイトをご覧ください。

- K-1 システム開発・新技術の利用：その先にある学習環境の提案
コーディネータ：竹中真希子（大分大学），飛弾信崇（ベネッセコーポレーション）
- K-2 学習環境・実践コミュニティのデザイン原則
コーディネータ：大島 純（静岡大学），加藤 浩（放送大学），舟生日出男（広島大学）
- K-3 組織・職場における学びの組織化
コーディネータ：栗山 健（学研教育出版），山田政寛（金沢大学）
- K-4 授業研究と教師の力量形成
コーディネータ：柴田好章（名古屋大学），田中博之（早稲田大学）
- K-5 初等中等教育におけるICT活用
コーディネータ：清水悦幸（内田洋行），高橋 純（富山大学），中川一史（放送大学）
- K-6 eポートフォリオの持続的活用と普及
コーディネータ：小川賀代（日本女子大学），永田智子（兵庫教育大学）
- K-7 高等教育・FDにおける教育工学の役割
コーディネータ：石川 真（上越教育大学），黒田 卓（富山大学），椿本弥生（東京大学）
- K-8 教育／学習支援への工学的アプローチとその評価
コーディネータ：柏原昭博（電気通信大学），平嶋 宗（広島大学），
室田真男（東京工業大学）

(3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申し込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。

なお、一般研究発表については、口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が申込時に選択できます。ポスター発表者は、発表セッションの定められた時間帯に、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育(情報活用能力の育成等) (3) 教科指導におけるICT活用 (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔学習 (16) 知的学習支援システム (17) 認知(記憶, 問題解決, 脳・神経科学など) (18) 教育メディア (19) e-Learning (システム) (20) e-Learning (運用・評価) (21) 協調学習と協調作業 (22) ワークショップ (23) その他

(4) International Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。発表は一般研究発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

(5) ワークショップ

昨年度の大会にて実行委員会企画で実施されたワークショップは、本年度から大会企画委員会が中心となって開催します。このワークショップは、参加者が設定したテーマについてインフォーマルに語りあう場です。実践は進んでいるものの研究として認識されていない問題や、新しい情報技術の教育利用

などの萌芽的な研究について議論を行っていただくことを考えております。ワークショップは主催者主導で進行していただきます。また、予稿の用意は必要ありません。なおプログラム集には、ワークショップテーマ名・主催者/共催者名・概要が掲載されます。

テーマは公募といたします。大会企画委員会では5-10件程度を想定していますが、会場の関係上応募多数の場合は調整させていただくことがございますのであらかじめご了承ください。議論を通じて、教育工学に関心を持つコミュニティが作られ、発展していくことを期待しています。積極的なご応募をお待ちしております。

応募のスケジュール：

6月01日～30日 ワークショップ テーマ受付期間

7月14日 ワークショップ テーマ決定（応募多数の場合、採否結果通知を致します）

応募方法・応募先：

電子メールにて、ワークショップ主催者と共催者の氏名、ご所属、メールアドレス、ワークショップ名と概要（300字程度）を大会企画委員会（taikai2010@jset.gr.jp）までお送り下さい。

なお、件名は「ワークショップ応募」として下さい。

◆発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明10分 研究発表各15分 総合討論1時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表10分 質疑応答4分

<ポスター発表>1セッション（在席責任時間は60分）

[International Session] 発表13分 質疑応答5分

◆発表内容の撮影、録音、録画等について

発表者、参加者の双方に次のことをお願いいたします。

- 1) 発表者は参加者が発表内容を撮影、録音、録画する可能性のあることを承知の上で発表して下さい。参加者に記録されると問題を生じさせる可能性はあるが、研究を進めるためには発表会場で参加者と共有し、議論する必要がある内容を提示する場合には発表者自身が参加者に記録しないよう指示して下さい。
- 2) 撮影、録音、録画したものについて、日本国の著作権法が規定している範囲以外で利用される場合は、発表者の許可をとって下さい。
- 3) 大会スタッフが記録用写真やニューズレター用写真を撮影します。撮影を拒否される方は、記録係のスタッフに撮影しないようお伝え下さい。

4. 大会までのスケジュール

6月24日	木	課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切
6月30日	水	ワークショップ テーマ受付締切
7月08日	木	課題研究採否決定通知
7月14日	水	ワークショップ テーマ決定
7月20日17時	火	発表者の参加費事前送金締切（クレジットカード払い、郵便振込共に） 課題研究発表原稿（2又は4ページ）提出 一般研究発表／International Session申込書・原稿（2ページ）提出 ※17:00が最終締切時刻となります。原稿の差し替えは、7月27日17時まではWeb上で可能です（電子メールによる差し替えは認められません）。
7月27日17時	火	提出原稿の差し替え締切（17時厳守。この時刻以降の原稿の提出は一切受け付けません。）
8月24日	火	発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード払い、郵便振込共に） （それ以降は送金しない）

5. 大会への発表申し込み等

(1) 発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。この会員には、発表申し込み時に入会される方も含まれます。
- ・発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。また、[発表者]には、事前に、大会参加費を送金していただくことになっております。ご注意ください。発表原稿送付時に、JSETホームページの大会関係部分にて指定される「発表申し込み」の登録をしていただきますので、その登録時に年会費等の納入状況がチェックされます。事前に年会費等の納入をお願いします。なお、大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。
- ・ワークショップの主催者は、事前送金締切までに、年会費、大会参加費を納入されていることが条件となります。
- ・維持会員に所属する者は最大3名まで個人会員として加入しなくても発表ができます。これに該当する発表者を事前に登録しますので、7月16日までに大会企画委員会 (taikai2010@jset.gr.jp) にご連絡下さい。この期限を過ぎた後の受付はできませんので、ご注意ください。

(2) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[課題研究・一般研究・International Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込むことができます。さらに、ワークショップ1件を主催できます。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似の内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・課題研究は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に一般研究にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・発表プロポーザルを、6月24日(木)17:00までに提出して下さい。
- ・ページ数はA4版2～4ページとします。フォーマットは特に定めておりません。
- ・プロポーザルの提出は、オンライン(Web)受付のみとします。詳しい手続きについては、JSETホームページの大会関係部分をご覧ください。
- ・課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、7月08日(木)までに申し込み者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出して下さい。

- ・A4サイズで2又は4ページ。原稿用紙は送付しません。JSETホームページ大会関係部分に示された内容に従って作成して下さい。
- ・JSET大会ホームページから、7月20日(火)17:00までに、最終原稿のファイルを送信していただきます。
- ・発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究及びInternational Sessionの発表申し込み方法

- ・7月20日(火)17:00までに、JSETホームページ大会関係部分から原稿ファイルを提出して下さい。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・一般研究とInternational Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。
- ・原稿用紙は送付しません。JSET大会ホームページに示された指定に従って作成して下さい。
- ・発表日時の希望には応じられません。また、発表者及び連名者には、大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には、それをご担当いただきますので、予めご了承下さい。

(5) CD-ROMの作成について

前大会の論文集から、冊子体のものに加えて、論文本文の文字列検索が可能なCD-ROM (PDFファイル)を作成することになりましたので、ファイル提出時の注意にしたがって提出して下さい。

また、大会原稿の著作権を学会に譲渡いただくことについて今後検討されることが想定されています。この件につきましては、理事会で決定されました時点でお知らせします。

【重要】 原稿ファイルの提出に関するお願い。

論文集のCD-ROMは、論文本文中の文字列の検索が可能になる方法で作成します。このために、次のご協力をお願いいたします。

PDF/X-1a形式による提出：(PDF/X-1a形式の説明は：<http://www.jset.gr.jp/taikai26/>)

PDF/X-1a形式で提出していただきます。また、PDFだけでなく、元ファイル (MS-Word形式や一太郎形式のファイル) も提出して下さい。TeXで作成される場合でも、フォントの埋め込み処理が行われていないことがありますので、ソースファイルすべてをひとまとめにして (アーカイブ形式等)、提出して下さい。

【注意】

1. 原稿サイズA4版をB5版に縮小して印刷します。細い線が消えてしまう場合がありますので、細すぎないように注意して下さい。
2. PDF作成時に、図表やキャプションの位置が意図しない場所に移動することがあります。作成したPDFを印刷してチェックしたのち、投稿して下さい。
3. PDFにフォントが埋め込まれているか自信がない場合には、一般的なフォント、文字コードを利用して下さい。文字コードによっては、検索できない場合もあります。
4. 大会ホームページに掲載される方法に従ってファイルを作成して下さい。提出していただいたファイルの書式や文字化け等のチェック作業は、大会企画委員会では一切行いません。

(6) 発表取り消しについて

やむを得ない事情で発表を取り消しなされる場合には、すみやかに、大会企画委員会 (taikai2010@jset.gr.jp) までご連絡下さい。その場合には、論文集に原稿が掲載されていても、発表者の業績としてみなすことはできません (学会から提供する発表リストから削除します)。なお、ポスター発表については、ポスターを掲示していても発表者が会場にいない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意下さい。

6. 大会の参加申し込み及び受付等について

大会に参加を希望される方は以下の手順に従って、申し込みをお願いします。

(1) 事前送金の場合の参加費等について

事前に参加費等を送金される場合は、以下の金額を、事前支払期限までに送金して下さい。事前支払期限は、発表者の場合、郵便振替の場合も、クレジットカード支払いの場合も7月20日(火)です。発表者以外の方は、郵便振替の場合もクレジットカード支払いの場合も8月24日(火)です。

参加費 正・准・名誉会員	2,500円 (当日は4,000円)
学生会員	1,500円 (当日は3,000円)
非会員	3,000円 (当日は4,000円)
懇親会費	5,000円 (当日は6,000円)
講演論文集代 (CD-ROM付)	6,000円 (当日も6,000円)
講演論文集の送料 (参加されない場合)	1,000円

事前支払期限以降に送金された場合は、当日参加の場合との差額を会場でお支払いいただきます。なお、事前支払期限までに発表者の参加費及び2010年度会費の納入が確認できない場合は、発表は取り消

しとなりますので、ご注意ください。

8月24日(火)までの変更については、返金は致しませんが、送金なされた分を次年度の年会費に振り替えることができます。大会企画委員会 (taikai2010@jset.gr.jp) までご連絡下さい。非会員の場合は入会をしていただくこととなります。この日以降は、変更を連絡いただいても、原則として返金等ができないことをご了解下さい。

大会参加費と論文集代を事前に送金したけれども、学会事務局に連絡することなく、大会に参加されなかった場合には、その旨を大会企画委員会 (taikai2010@jset.gr.jp) までご連絡下さい。論文集をお送りします(送料は参加費で補填いたします)。ただし、その差額は返金できません。

卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は、「准会員」に会員種別が変更されています。学生会員としての特典はありませんので、ご注意ください。

(2) 事前の送金と参加登録について

会員と非会員で参加費等が異なります。JSET大会ホームページ (<http://www.jset.gr.jp/taikai26/>) の「参加申し込み」ページにアクセスして下さい。その画面で、①正会員・准会員・名誉会員の場合、②学生会員の場合、③非会員の場合を選択できますので、それぞれの場合の説明に従って参加登録と送金手続きをお願いします。

また、送金方法として、3つの方法が準備されます。それらは、①クレジットカードによる支払い、②郵便振替、③当日会場で現金で支払いです。

なお、事前に送金をしていただける場合は、クレジットカード支払いと郵便振替のどちらかの方法をご利用下さい。

①「クレジットカードによる支払い」の場合

- ・前述の「参加申し込み」ページで、「クレジットカードによる支払い」を選択して下さい。
- ・ただし、その際には学会から発行してご連絡してありますID・パスワードが必要です。パスワードをお忘れになった場合は再発行いたしますので、大会企画委員会 (taikai2010@jset.gr.jp) に、電子メールでご連絡下さい。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・なお、学生割引は正規の学生会員に限ります。そのため、登録されている学生会員以外は割引価格では送金できないようになっています。

②「郵便振替」の場合

- ・会員が郵便振替で送金される場合も、「参加申し込み」ページで、「郵便振替」を選択して下さい。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。その際表示される金額と送金内容を学会からニューズレターと一緒に送りする郵便振替用紙に記入して、郵便局の窓口から送金して下さい。なお、必ず会員番号をお書き下さい。
- ・郵便局の窓口から送金されてから会員データベースに入力されるまで、1週間から10日かかります。
- ・不足料金がある場合、電子メールアドレスがわかる方にはできるだけ事前に連絡しますが、全員にはご連絡できないことも想定されますので、十分ご注意ください。

③「当日会場で現金で支払い」の場合の事前登録

- ・「当日会場で現金で支払い」の場合でも、参加登録を事前にさせていただきますと、会場での受付が非常に簡便になります。
- ・この場合、「参加申し込み」ページで「当日会場で現金で支払い」を選択して下さい。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・登録内容が自動的にメールで送信されますので、それをプリントして当日会場受付にお出し下さい。当日参加票に記入する必要がなくなります。

(3) 大会受付票等の送付について

事前送金された方々には、大会受付票等を9月上旬までにお送りします(予定)。

- ・クレジットカード支払い、あるいは郵便振替で事前送金された参加者には、9月上旬までに、「大会受付票」「大会参加証(名札用)」「領収書」を電子メールの添付書類でお送りします。
- ・大会当日は、電子メールで送られた「大会受付票」等をプリントしてお持ち下さい。
- ・ただし、電子メールアドレスが登録されていない会員には、大会受付票等が送られませんので、当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上、その旨お申し出下さい。

(4) 当日の受付について

① 事前送金済みの場合

- ・大会受付の「事前送金済参加者」窓口で、電子メールでお送りした「大会受付票」をお渡し下さい。
- ・大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・プリントして持参していただいた「大会参加証(名札用)」を名札ケースにお入れ下さい。
- ・大会受付票をお忘れになる場合に備えて、できれば受付番号をメモしておいて下さい。
- ・大会受付票を持参されなかった方は、当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上「事前送金済参加者」窓口にて、その旨、お申し出下さい。
- ・送金金額に不足があり、大会当日に差額をお支払いいただく場合は、「総合受付」でお受けします。

② 当日参加の場合

- ・当日参加者は、大会受付にて、「当日参加受付票」に必要な事項を記入して、それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい（名刺をお渡し下さる場合は、連絡先住所等の記入を省略することができます）。
- ・ただし、学会ホームページから参加登録を行った会員は、自動送信されたメールをプリントしてお持ち下さい。会場で「当日参加受付票」に記入していただく必要がなくなります。
- ・お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・名札ケースに名刺を入れるか、お名前をカードに書いて入れて下さい。
- ・懇親会費を支払われた場合は、名札にマークをはらせていただきます。

(5) その他

- ・学生割引は本学会の正規の学生会員に限ります。そのため、学生会員以外が割引価格の金額を送金された場合は、差額を申し受けます。
- ・名札ケースは、最終日のお帰りの際に、口頭発表会場入口前に設置したボックスにご返却下さい。

7. 会場の設備について

口頭発表のすべての会場で、コンピュータの画面を投影できる設備(プロジェクタ)が利用可能です。コンピュータは用意されていません。各自ご持参下さい。また、一部の口頭発表会場では無線LANが利用可能ですが、すべての会場には用意されていないため、インターネットにアクセスできる環境は用意されていないと考えて発表の準備をお願いいたします。なお、OHPや実物投影装置は用意しません。デジタルカメラとビデオコードをご持参いただき、資料提示して下さい。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了して下さい。また、PCから音声を流す場合は、スピーカーを発表者自身でご用意下さい。

ポスター発表の会場では、幅90cm・高さ180cm程度のポスター掲示用パネルを用意する予定です。また、パネル前に長机(高さ70センチメートル程度)を用意しますので、配布資料やデモンストレーション用のパソコン等を置くことが可能です。ただ、ポスター発表会場にはインターネットにアクセスできる環境と電源は用意されていないので、それを前提にした発表準備をお願いいたします。

8. 企業の展示について

大会期間中、企業による製品等の展示も行います。出展、ならびに大会プログラム等における広告を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ(tenji@jset.gr.jp)へお問い合わせ下さい。募集要項、申込書など詳細は、JSETホームページの大会関係部分の「企業の展示」ページをご覧ください。

9. 宿泊について

金城学院大学生協が斡旋します。金城学院大学への移動に便利な栄のホテルを予約できます。

ご希望の方は案内文書(http://www.jset.gr.jp/taikai26/images/schedule_01.pdf)をお読みいただき、下記サイトからインターネット経由で申し込むか、申し込み用紙を利用してFAXで申し込むかのいずれかの方法で申し込んで下さい。

宿泊予約受付サイト

<http://www.univcoop-tokai.jp/yado/jset26/>

(旅行取扱料金1,050円がかかります。ページの記載内容をよくお読みの上、お申し込み下さい。)

10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせ下さい。

日本教育工学会 大会企画委員会 問い合わせ用電子メールアドレス：taikai2010@jset.gr.jp

大会企画委員会

委員長：東原義訓(信州大学)

副委員長(五十音順，以下同様)：

幹事：石川 真(上越教育大学)，

委員：大島 純(静岡大学)，

柏原昭博(電気通信大学)，

黒田 卓(富山大学)，

鈴木克明(熊本大学)，

田中博之(早稲田大学)，

永田智子(兵庫教育大学)，

平嶋 宗(広島大学)，

美馬のゆり(はこだて未来大学)，

担当副会長：山西潤一(富山大学)

アドバイザー：清水康敬(東京工業大学)，永野和男(聖心女子大学)

前迫孝憲(大阪大学)，

椿本弥生(東京大学)

大谷 尚(名古屋大)，

加藤 浩(放送大学)，

柴田好章(名古屋大学)，

高橋 純(富山大学)，

豊田充崇(和歌山大学)，

長谷川元洋(金城学院大学)，

舟生日出男(広島大学)，

山田政寛(金沢大学)

室田真男(東京工業大学)

小川賀代(日本女子大学)，

栗山 健(学研教育出版)，

清水悦幸(内田洋行)，

竹中真希子(大分大学)，

中川一史(放送大学)，

飛弾信崇(ベネッセコーポレーション)，

益子典文(岐阜大学)，

大会実行委員会

委員長：中田 平(金城学院大学)

副委員長：長谷川元洋(金城学院大学)

委員(五十音順)：岩崎公弥子(金城学院大学)，

影戸 誠(日本福祉大学)，

柴田好章(名古屋大学)，

白井靖敏(名古屋女子大学)，

属小学校)，

後藤昌人(金城学院大学)，

下木戸隆司(鹿児島大学)，

須曾野仁志(三重大学)，

中村正治(金城学院大学)，

大谷 尚(名古屋大学)，

坂本将暢(愛知工業大学)，

下村 勉(三重大学)，

中村武弘(三重大学教育学部附

属小学校)，

韓国・インドネシアとの国際交流

韓国教育工学会KSETの国際会議に参加して

2010年5月8日に、ソウル市にある最大規模の学生数を有する私立Korea大学で開催されたKSETの国際会議に参加した。この日は、ちょうどJSETの理事会の日で、永野会長が出席できず、代理として参加した。KSETとJSETは、毎年それぞれの大会に代表者を招待しているが、今年も恒例の行事になった。KSETの会長は、Dr.Dongsik Kimで、写真の右側で賞状を手渡している人物である。アメリカのAECTと日本のJSETが招待され、開会式でAECTのDr. M. Spectorと私が挨拶をした。テーマは、教育工学のエコロジーという最新の話題であり、アメリカ、オランダ、日本のICUから専門家を招待し、講演が行われた。JSETも、さらに国際セッションを充実させる必要がある。

赤堀侃司(白鷗大学)



インドネシア教育工学国際セミナーに参加して

インドネシア教育工学会とインドネシア遠隔教育学会の共催による「国際セミナー：教育工学に関するアジアネットワークの可能性」が5月17日、18日ジャカルタで開催された。日本教育工学会会長への招待状が届き、会長に代わって同会に参加させていただいた。インドネシア教育省の高等教育部門の支援によるもので、セミナーの内容も高等教育の改善に関わるものが中心であった。インドネシアは2.2億、世界第4位の人口を抱え、人材育成こそが国の発展につながると教育への投資がすごい。特に17,000の島、742の言語をもつ同国は、教育の方法として遠隔教育が不可欠な状況だ。ネットワークを活用した遠隔教育による学位取得も可能で、インドネシア教育工学会会長のDr. Atwi氏のTerubuka大学では、遠隔教育で65万人の学生が学んでいると言う。2日間の国際セミナーには、地元インドネシアを中心に、マレーシア、韓国、中国、米国、カナダ、日本などから約350名が参加した。内容は遠隔教育のためのインフラ構築、教材開発、人材養成、授業評価など多岐にわたった。「高等教育の充実に向けた教育工学への期待」と題したインドネシア教育省副大臣による熱のこもった

山西潤一(富山大学)



キーノートスピーチが印象に残った。会長のDr. Atwi氏は日本ともより深い交流を期待したいとのこと。学会誌を通しての交流、学会の国際セッションのネット配信、ホームページ国際版の充実等、学会のグローバル化がますます求められる。

2010年度 夏の合宿研究会のご案内（最終報）

■テーマ：教育の情報化 次の10年を考える

2010年という年は、新学習指導要領の施行を間近に控え、また教育の情報化をいっそう進展させるために作成される「教育の情報化に関する手引」が出揃う年でもあります。さらには、4月から始まった「学校教育の情報化に関する懇談会」における議論等もこの分野の研究者や実践家の注目を集めています。このように、2010年は、教育の情報化に関する営みが新たなスタートを切るための準備期間として重要な1年と言えます。

そこで2010年度夏の合宿研究会の企画にあたって、「教育の情報化 次の10年を考える」というテーマを設定しました。ICT活用の現状、学校・地域の情報化を担う立場にある教員・指導主事の取り組みやそこで抱えている悩みなど、学校現場での具体的な事例を取り上げ、現在に至る教育の情報化の動きを振り返ります。また、ワークショップでは、教育の情報化を持続的に進めていくために重要となる「日常的なICT活用」を意識し、今学校現場で使われている、もしくはこれから導入が進むと考えられるICT機器の活用を実際に体験しながら、その実践化を検討する予定です。

今年、教員・研究者・企業など様々な立場から、このテーマについて広く意見を交換し、今後10年間の教育の情報化のあり方を考える会にしたいと思います。

■期日：2010年8月7日(土) 13:00～8日(日)12:00

■会場：福山大学社会連携研究推進センター（広島県福山市丸之内1丁目2番地40号）

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/>

・電車でお越しの場合 JR山陽新幹線・山陽本線福山駅北口すぐ（徒歩1分）

*福山大学本キャンパスではありませんのでお間違えのないようお願いいたします。

■対象：学校教育に関わる実践者および研究者、学会関係者

■参加費：1,000円（予定）資料代を含みます（なお、「情報交換会」の参加費は別途徴収させていただきます）。

■宿泊：宿泊場所につきましては、近隣のホテル等を各自でご手配お願いいたします。

■プログラム（予定）

【一日目】8月7日（土）13:30～17:30（受付13:00～）

13:30～13:40 開会のあいさつ

13:40～14:40 基調講演「教育の情報化 これまでとこれから」 東原義訓（信州大学）

14:50～16:20 ICT活用・教育の情報化に関する事例報告と協議

山中昭岳（和歌山大学教育学部附属小学校）

愛甲昌弘（三次市立三和小学校）

埴岡克明（広島市教育委員会）

16:30～17:30 ワークショップ「ICTの活用とその可能性 ～体験から考える～」

ICT機器（電子黒板、クリッカー等）を実際に使用しながら、その活用法について検討します。

18:00～20:00 情報交換会

【二日目】8月8日（日）9:30～12:00（受付9:15～）

9:30～9:40 一日目の活動の振り返り等

9:40～11:30 ワークショップ「ICTの活用とその可能性 ～共有から考える～」

ICT機器の活用法や期待できる効果などについて報告し合います。

11:30～12:00 全体総括 宮田 仁（滋賀大学）

■開催担当・問い合わせ先：内垣戸貴之（福山大学人間文化学部）

メール：gayto@fuhe.fukuyama-u.ac.jp 電話：084-936-2112（内線2223:福山大学人間文化学部事務室）

*詳細及び参加申込みの手続きについては、日本教育工学会Webサイトの該当ページにてご確認下さい。

研究会の開催



研究会 2010 テーマ 新時代の学習評価：理論・システム・実践／一般

- 日 時：2010年07月03日（土）
- 会 場：電気通信大学（情報システム学研究科棟（IS棟））
（〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1）
- 担 当：植野真臣（ ueno@ai.is.uec.ac.jp ）

プログラム

発表時間：発表1件につき24分（発表19分程度，質疑5分程度）

A会場(111教室), B会場(113教室)

9:55-10:00 諸連絡

10:00-12:05 午前の部

- A1) 英語に関する「学力」と「テスト作成力」の関係の分析
永岡慶三（早稲田大学）
- A2) 作問演習システム「CollabTest」の利用実態調査
高木正則（岩手県立大学），金子徹哉，望月雅光，勅使河原可海（創価大学）
- A3) 確率的アプローチに基づく論文構成構築支援システム
宇都雅輝，宮澤芳光（電気通信大学大学院），鈴木宏昭（青山学院大学），植野真臣（電気通信大学大学院）
- A4) 相互チェックによる自己添削機能を活用した日本語文章表現法学習モデル
竹内純人，又平恵美子，稲積宏誠（青山学院大学）
- A5) 映像評価傾向の可視化機能を持った面接学習ツールの開発
古川雅子（早稲田大学），柳沼良知，山田恒夫（放送大学／総合研究大学院大学）

- B1) 教員および高専学生を対象とした知的財産教育の実践
福本 徹（国立教育政策研究所），宮川洋一（岩手大学）
- B2) インストラクショナルデザインのメリルのID第1原理を活用しExcel講習会を開いた結果報告
柳田明子（東北工業株式会社）
- B3) 教育情報コラボレーション
柏木 肇（電気通信大学大学院）
- B4) デジタル・ネイティブのコミュニケーション能力育成 - その背景とモデル -
豊福晋平（国際大学）
- B5) 対話の進化を可視化する知識構築の十字モデル
牧野由香里（関西大学）

13:05-13:10 委員会挨拶・諸連絡

13:10-15:15 午後の部第一部

- A6) 多機能型eポートフォリオシステム"Samurai-folio"の開発
植野真臣（電気通信大学大学院）
- A7) eポートフォリオ活用時の教授チームと学習者の協働に関する考察
新目真紀，合田美子，半田純子，長沼将一（青山学院大学）
- A8) 受検者の能力の影響を考慮した項目の従属関係の検出
橋本貴充（大学入試センター／電気通信大学大学院），植野真臣（電気通信大学大学院）
- A9) Automatically Constructing Multiple Equivalent Test Forms using Bees Algorithm and Parallel Computing
Pokpong Songmuang（教育測定研究所），Maomi Ueno（電気通信大学大学院）
- A10) 工学系大学院の研究室教育における学生の満足度および成長の自己評価と研究業績の関係
北村 智（東京大学大学院），岡本絵莉（東京大学）

- B6) 若手FD担当者の業務に対する感情に他部局との連携が与える影響
半澤礼之，田口真奈（京都大学），杉原真晃（山形大学），村上正行（京都外国語大学）
- B7) 授業評価アンケートと授業改善に関する教員の意識調査
- Webアンケートシステム「REAS」を用いて -
酒井浩二（京都光華女子大学），坂井美也子（池坊短期大学），高井康弘（大谷大学），
深田 守（京都薬科大学），行廣隆次（京都学園大学），
深野政之，川面きよ（京都FD開発推進センター）
- B8) 授業デザインのリフレクションを促す大学教員向けワークシートの開発と評価
田口真奈，半澤礼之，松下佳代（京都大学）

B9) 資質評価と一体化した教職課程カリキュラムの再構築

松田稔樹, 前川眞一 (東京工業大学大学院)

B10) 無償の高等教育(大学を除く)をデザインする

西之園晴夫 (学習開発研究所)

15:30-17:35 午後の部第二部

A11) 短期大学の入学予定者を対象とした入学準備教育におけるe-learningシステムの活用

杉本雅彦, 小林秀高, 庄内慶一, 藤田 守, 小瀧 聡 (拓殖大学北海道短期大学),
石原 学 (小山工業高等専門学校)

A12) アクティブ・ラーニング形態の初年次教育におけるグループ学習の役割

大山牧子 (京都大学大学院), 田口真奈 (京都大学)

A13) 手書き入力・自動採点システムによる放課後自学自習用電子教材の開発

武田亘明 (札幌市立大学), 高橋裕幸 (札幌市立栄町小学校), 三河康生 (小樽市立最上小学校),
荒島 晋 (札幌市立向陵中学校), 大橋 剛 (札幌市立厚別通小学校), 黒坂俊介 (岩見沢市立第二小学校),
高本 茂 (株) 富士通北海道システムズ, 上草憲昭 (マニュアルネット (株))

A14) LMSのテスト機能を用いた算数「分数」での振り返り学習の実践と評価

山本朋弘 (熊本県教育庁), 宇佐川毅 (熊本大学大学院), 清水康敬 (東京工業大学)

A15) 現実的場面での評価を支援する携帯型e-テスト

宮澤芳光, 宇都雅輝 (電気通信大学大学院), 安藤雅洋 (電気通信大学大学院/長岡技術科学大学),
植野真臣 (電気通信大学大学院)

B11) 中学校家庭科での乳児の特性理解における乳児ロボットの活用意図の検討

野村泰朗 (埼玉大学), 佐藤千佳 (戸田市立美女木小学校), 山城由美香 (株) ぎょうせい

B12) きつづ光科学館ふおとんにおける関西光科学研究所と協同したエネルギー環境教育活動の実践

星屋泰二, 西村昭彦 (日本原子力研究開発機構), 鶴飼恵美, 西川雅弘 (きつづ光科学館ふおとん)

B13) ニンテンドーDS利用による自律学習とシミュレーションを取り入れた英語授業デザインの試行

近藤睦美 (帝塚山学院大学), 石川保茂, クレイグ・スミス, 坂本季詩雄, 下村秀則 (京都外国語大学),
和田周久 (株式会社IEインスティテュート)

B14) eラーニングにおけるタブレットPCを用いた書込みの効果分析

安藤雅洋 (電気通信大学大学院/長岡技術科学大学), 植野真臣 (電気通信大学大学院)

B15) Webベース授業支援システムが観察実験活動においてILEとして機能すべき役割の検討

孕石敏貴 (埼玉大学大学院), 野村泰朗 (埼玉大学)

-
- 参加費用: 参加費は無料です。研究会報告集の年間予約購読代金 (3,500円) を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として1,000円を当日受付にてお支払い下さい。また、当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。尚、年会費には研究会報告集の年間購読代金は含まれておりませんのでご注意下さい。

- 交通案内: 公共交通機関をご利用下さい。詳しくは、電気通信大学 Webサイトの「アクセスマップ」をご参照下さい。 <http://www.uec.ac.jp/about/profile/access/>

- 昼食案内: 研究会当日は大学生協の食堂および購買が営業しております。

●研究会委員会からのお願い:

郵便振替にて研究会報告集の年間予約購読代金を送金される場合、事務局の確認およびシステムへの登録作業に時間がかかるため、研究会当日の受付時に受付システムで入金の確認ができないことがあります。受付システムで入金を確認できない場合には、郵便振替での送金を証明する控え等で入金の確認をさせていただきます。証明できるものがない場合には、報告集代を一旦徴収し、確認がとれた時点で次年度の研究会報告集の年間予約購読代金の一部とさせていただきますのでご了承下さい。

研究会の発表募集

テーマ： メディアの活用と教育・学習環境／一般

- 日 時：2010年10月23日(土)
- 申込締切：2010年08月22日(日)

- 会 場：茨城大学(担当：関 友作)
- 原稿提出：2010年09月12日(日)

●募集内容：

各種のメディアを有効に活用することは、以前から、教育工学のひとつの基盤になっています。近年では、コンピュータ・インターネット・携帯機器をはじめ、さまざまな技術が実用化され、教育・学習の場面でも、広く活かされてきています。そこで、本研究会では、新旧の多様なメディアの活用が、教育・学習環境をどのように変えつつあるのか、をテーマにいたしました。学校はもちろん、企業内教育や社会人教育もふくめて、そうした内容の研究に携わっておられる方々の発表を、広く募ります。それにより、教育目的でのメディアの有効活用について、自由な議論や情報共有ができれば、と考えています。また、上記のテーマにはこだわらない、教育工学一般における発表も、幅広く募集しております。

●発表申込締切から原稿提出締切までの期間が短くなっておりますのでご注意ください。

●申込方法：研究会Webページよりお申し込み下さい。

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

●原稿執筆：締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出：原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してください。尚、期限までに提出いただけない場合は、キャンセルとさせていただきます。

今後の研究会の開催予定

開催日	募集テーマ(予定を含む)	開催場所
2010年12月18日	ICTを活用したFDと大学・高大連携／一般	大分大学
2011年03月05日	学校現場に対する支援／一般	静岡大学

●発表申込み締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。

●研究会に関するご意見・ご希望、研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会幹事までお寄せ下さい。

E-mail: study-group-core@jset.gr.jp

年間予約購読のお勧め



●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは1冊1,000円と割高になります)。年間5冊、各研究会平均38件程度(平成21年度実績)の研究発表が掲載されます。

詳しくは、研究会Webページ(<http://www.jset.gr.jp/study-group/houkoku.html>)をご覧ください。

研究会の開催報告

●日 時：2010年05月15日

●会 場：北海道教育大学旭川校

●発表件数：28件

●参加者数：58名

「情報モラル教育・ネットいじめ対策」というテーマで、平成22年度第1回の研究会を開催いたしました。旭川という不便な場所にも拘わらず、28件の研究発表があり、58名の皆様にご参加いただきました。会場は好天に恵まれ、蝦夷山桜が咲き始め、1週間前にはまだ雪が残っていたとは思えない暖かい日和の中での開催となりました。会場内では、情報モラル教育や、教育工学一般に関する内容の研究発表と議論が活発に行われました。その議論の中から、今後の情報モラル指導のあり方について、子どもたちの健やかな成長のために、教育者と研究者が胸襟を開いて議論し尽くす必要性を改めて感じる事ができました。B会場では、プロジェクトテーブルの不具合でご迷惑をおかけする場面がありましたが、参加者の皆様のおかげで、大過なく研究会を終えることができました。研究会にご参加いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。



担当：村田育也(北海道教育大学旭川校)

日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集

「特集：新時代の学習評価」のご案内（第二報）

近年、学習理論の主流が構成主義に変化してきたことにより、評価理論はテストのみによる評価から、より自然で真正な文脈における評価へ移行しつつあります。一般の社会では人の能力をペーパーテストのみで評価することは少なく、むしろパフォーマンス（成果）で評価することのほうが多いといえます。また、一人の審査者が評価するより共同体の複数のメンバたちが評価することのほうが多いともいえます。最近の学習評価では、このような自然な学習評価の環境を重視し、従来からのテストの仕組みから抜け出し、より真正で実践的な評価が提案されつつあります。この特集号では、新時代の学習観、知識観に基づいて提案された新しい学習評価手法の理論研究、システム開発研究、実践研究についての論文を募集します。

1. 対象分野

- (1) 評価手法の開発・適用・実践（ポートフォリオ、ルーブリック、ピア・アセスメント、真正な評価、ダイナミック・アセスメント、など）
- (2) 評価システムの開発と適用・実践（eポートフォリオ、eテストング、教育データマイニング、自動作問、学習者協調作問環境、小論文自動採点技術、など）
- (3) 生理情報を用いた学習評価（脳科学、眼球運動、血圧情報、など）
- (4) 新時代の学力調査（PISA、新しい学力、学力観の変容に対応する評価、大規模学力調査、など）
- (5) 教育組織の評価（学校評価、大学評価、費用対効果、など）
- (6) 教育の質保証と評価（FD、ディプロマ・ポリシー、学生による評価、など）
- (7) その他の「新時代の学習評価」に関する理論・手法・システム開発・実践など

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「システム開発論文」「教育実践研究論文」「資料」「寄書」を募集します。投稿規程は通常の論文誌の場合と同じです。ただし、査読は2回限りとし、編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません。「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させて「論文」として投稿することも可能ですが、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。なお、本特集号の対象分野外の論文が投稿された場合は、一般論文として扱うこととなりますので、あらかじめご了承下さい。

3. 論文投稿締め切り日（2011年11月発行予定）

投稿原稿を2月8日までに電子投稿をお願いします。ただし、2月15日までは、論文を改訂することができます。締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：2011年2月08日（火）

最終原稿提出締め切り（電子投稿）：2011年2月15日（火）

4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿して下さい。郵送による投稿は受け付けません。

5. 問い合わせ先

電子メール：editor@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

第13期第8回理事会議事録

日 時：2010年05月08日(土)14:40～16:40

場 所：聖心女子大学 341号室

出 席：永野和男会長，永岡慶三副会長，山西潤一副会長，赤倉貴子，植野真臣，小柳和喜雄，木原俊行，澤本和子，清水康敬，南部昌敏，東原義訓，堀田龍也，前迫孝憲，宮田 仁，村川雅弘，室田真男，矢野米雄，山内祐平，吉崎静夫

1. 第13期第7回理事会議事録を承認した。
2. 会員の移動について承認した。（会員総数2,605名）
3. 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会
 - 1) 清水編集長より編集の進捗状況について報告された。
 - 2) ショートレター号編集責任者は植野理事，「教育工学選書」WGは清水，永岡，吉崎，中山，野中の5氏にお願いすること，査読システムのリニューアルが進行中であることが報告された。
 - (2) 研究会委員会
小柳研究会委員長より，研究会予定，及び委員の交代の案について報告された。
 - (3) 企画委員会
木原企画委員長より，夏・冬の合宿研究会の企画及び委員の交代について報告があった。委員の交代については他委員会との調整や委員の負担等について意見交換が行われた。
 - (4) 大会企画委員会
東京大会企画委員長より大会準備の進捗状況について報告された。
 - (5) 選挙管理委員会
澤本選挙管理委員長より，前回選挙の課題につき報告がなされた。その後，種々議論の後「役員選挙に関する規程」を変更しないことが了承された。9月理事会では，次回役員選挙対象にならない理事による選挙管理委員を決定し選挙日程を審議する予定であることが報告された。
 - (6) 国際交流
 - 1) 矢野委員より，第26回全国大会での中国側参加計画について報告がなされた。
 - 2) 永野会長，山西副会長から，近隣諸国との交流促進について報告された。
 - (7) 特別企画（FD）
村川特別企画委員長より，2010年3月21日に実施されたFD研修会の報告が行われた。また，前回同様の手続で認定書発行を行うことが承認された。
 - (8) 広報委員会
赤倉委員長よりJSETニューズレター173号の台割案について提案され承認された。
 - (9) 事務・統括
 - 1) 永野会長より，次回総会議案の提案があり了承された。
 - 2) 工学教育連合の委員を永岡副会長にお願いしていることが報告された。
 - 3) 学会ロゴが決定した。ニューズレター，封筒などのデザインを順次変更する予定である。
 - 4) 各委員会経理をWeb報告できるようにシステム化しつつある。
 - 5) 日本学術振興会賞候補者について，今回は推薦なしとする。

以上

紙面が変わります！

学会HP（2010.04.28付）及び本ニューズレター172号でお知らせしました通り、日本教育工学会では設立25周年を記念して学会ロゴマークを公募し、厳正な審査の結果、三好健一氏（福岡市）の作品が最優秀作品に選ばれました。ニューズレターも、三好氏のデザインを取り入れた紙面に変更するよう準備を整えています。



学会日誌

2010年

7月03日(土)	研究会「新時代の学習評価：理論・システム・実践」	(電気通信大学)
8月07日(土)～08日(日)	夏の合宿研究会	(福山大学社会連携研究推進センター)
9月18日(土)～20日(月)	第26回全国大会	(金城学院大学)
10月23日(土)	研究会「メディアの活用と教育・学習環境」	(茨城大学)
12月18日(土)	研究会「ICTを活用したFDと大学・高大連携」	(大分大学)

2011年

3月05日(土)	研究会「学校現場に対する支援」	(静岡大学)
----------	-----------------	--------

国際会議の案内

2010年

ED-MEDIA	http://www.aace.org/conf/edmedia/	(6/28-7/2 Toronto, Canada)
CATE 2010	http://www.iasted.org/conferences/home-709.html	(8/23-25 Maui, Hawaii, USA)
E-Learn	http://www.aace.org/conf/eLearn/	(10/18-22 Orlando, Florida)
ICCE 2010	http://www.icce2010.upm.edu.my/	(11/29-12/3 Putrajaya, Malaysia)

2011年

SITE 2011	http://site.aace.org/conf/	(3/7-11 Nashville, Tennessee, USA)
-----------	---------------------------------------------------------------------	------------------------------------

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ…………… 編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ…………… 研究会事務局 (study-group-core@jset.gr.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ…………… 大会企画委員会 (taikai2010@jset.gr.jp)
- ◆ 合宿研究会やシンポジウムの開催についてのお問い合わせ…………… 企画委員会 (kikaku@jset.gr.jp)
- ◆ ニューズレター編集に関するお問い合わせ…………… 広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ…………… 学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長：清水康敬，担当副会長：永岡慶三，
広報委員長：赤倉貴子，幹事：伊藤剛和，委員：永田智子，皆川 武，宮田 仁
E-mail：kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニューズレター No. 173

2010年06月23日

発行人 永野和男

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL/FAX：03-5740-9505

E-mail：office@jset.gr.jp

<http://www.jset.gr.jp/>

郵便振替 00180-2-539055